

## 第4学年1組 道徳実践事例

日時：平成23年7月5日（火）第5校時

場所：4年1組教室

指導者名：梶山典子

1、主題名           ほんとうの勇氣           〈内容項目1－（4）勇氣〉

2、資料名           なかまはずれ

3、主題設定の理由

（1）ねらいとする価値について

中学年 視点1 「主として自分自身に関すること」

1－（3） 正しいと判断したことは、勇氣をもって行う。

正しいと思うことは積極的に行い、正しくないと判断したことは断固として行わないことが勇氣である。しかし、人間は弱く、正しいと知りつつもなかなか実行できなかつたり、間違っているとわかっても周りに流されてしまったりすることもある。だからこそ、勇氣ある行為をしたときの自信と誇りについて考えることを通して、正否の判断をしっかりとし、勇氣のある行動がとれる心を育てたい。

（2）価値に関わる児童の実態

本学級の児童は男女とも仲が良く、困っている友だちがいると手を貸したり、声をかけたりすることが多い。また、「正しいこと」「いいこと」を見分ける判断は身につけてきている。しかし、正しいことをした方がいい、しないといけないということがわかっているにもかかわらず、周りの友だちによって判断が左右されてしまう姿が見られる。勇氣をもって行えたときの自信と誇りについて考えさせ、「ほんとうの勇氣」について考えていきたい。

（3）資料について

本資料は、正しくないと考える行動を自制するための勇氣の問題とそれが友人関係に及ぼす影響の問題である。勇氣ある自制は、結果的に友情を支える行為であることに気づかせたい。

4、人権教育に関わって

人権教育では、“自分を大切にし、同じように他の人も大切にできる人～お互いの生き方や人格を認め合い、正義や公正を大切にする態度～”を育てることが目標である。本時の学習を通して、自分自身が正しいと思うことをできるような力や、互いを認め合いながらも正しいことを勇氣を持って実行していく力をつけてほしいと考える。また“自分のまわりの人と豊かにつながり、関わりを持って生

きょうとする人～さまざまな人とふれ、互いの違いを認め、助け合える態度～”を育てるという視点から、「おかしい」と思うことは相手にしっかりと伝えることのできる力もつけてほしい。周囲の友だちに流されてしまったり、勇気がもてなくておかしいと思いつながらとも言えなかったりするのではなく、自分がおかしいと思うことは伝えることが大切だという感性の育成を図りたい。

## 5、資料

「なかまはずれ」

挿絵は学研の「みんなのどうとく」のものを加工して使用。

本文は学研の「みんなのどうとく」より。

## 6、本時の目標

明の勇気ある行動に共感し、よいことや正しいと思うことは勇気を持って行う心情を育てる。

## 7、本時の展開

学習活動と主な発問	予想される児童の反応・様子	指導上の留意点と評価
1, 本時の主題を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「勇気」とはどういうことか予想させる。</li> <li>・ 国語辞典で「勇気」の意味を調べる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勇気の意味を理解することから価値への方向付けをする。</li> </ul>
2, 「なかまはずれ」を読んで話し合う。 ○注意を聞かずにおもしろそうに石を投げている友だちを見て、明はどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ おうちの人に迷惑がかかるのに。</li> <li>・ いけないことだしやめた方がいいのにな…。</li> <li>・ おもしろそうだし、ちょっとしてみたいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師の範読(場面の状況をとらえやすいように抑揚をつけた範読を心がける)</li> <li>・ 明の気持ちを考えやすくするために、場面絵を掲示する。</li> </ul>
◎年夫も仲間に入り、夢中で石を投げている年夫を見た明はどんなことを考えたでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 悪いことだからやめた方がいい。</li> <li>・ 注意しないといけないな。</li> <li>・ 言うのは怖いけど言わないといけないなあ。</li> <li>・ 言い返されるかもしれないから注意しないでおこう。</li> <li>・ ぼくもやってみようかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 明の心の中にある迷いや葛藤に注目させ、十分に共感できるようにする。</li> </ul>

<p>○「弱虫。明君は、先生に……しょうちしないぞ。」とおどかさねながらもはっきりと自分の考えを言い続けたのはなぜでしょう。</p> <p>3, 今までの自分を振り返り、これから勇気を持ってできそうなことを考え、発表する。</p> <p>4, ちょっとした勇気でできるよいことを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絶対してはいけないことだから。</li> <li>・ 絶対断らないといけないと思ったから。</li> <li>・ 先生に怒られないために言い続けたのではなくて、よくないことだから言い続けた。</li> <li>・ 明君は本当の勇気をもっているからだと思う。</li> <li>・ 掃除の時に遊んでいる友だちに注意したい。</li> <li>・ 自習の時に静かに学習に取り組みたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勇気をもって決断し、友だちにおどされながらもそれを乗り越えて言い続けた明の行為を受け止めさせたい。</li> <li>・ 日常生活の問題の中でちょっとした積極性を必要とする場合の勇気を引き出すようにする。</li> </ul>
--	--	--

## 8、成果と課題

善悪の判断ができにくい児童や、正しいとわかっても親しい友だちとの関係やその場の楽しさやおもしろさによって、流されてしまう児童も多い。本資料では、主人公の葛藤の場面において仲間はずれになってしまったこと（正しいと思ったことを貫き通せること）も勇気だということを感じるために、補助発問と主発問の違いをはっきりとさせ、主発問が強調されるような補助発問となるようにした方がもっと主題「勇気」にせまることができた。

勇気に関わる教師の話で、子どもたちの身の回りの生活へと結びつけ、心に迫ることができた。勇気ある行動は友情を支える行為だということを気付かせ、いい行いをしている姿をしっかりと認めていくことや、学級の中で勇気ある行動を取り合う中で、伝えるときには、やわらかい言い方をした方がさらにいいということも伝えたい。そのために、言葉を育て、さらに正しいことを言い合える仲間関係や、正しいことを貫き通す強い心を育てる必要があると感じた。

